

平成30年度 栃高教研情報教育部会北部支部会報告

1. 期日 平成30年10月9日(火)
2. 場所 栃木県立大田原高等学校(会議室)
3. 日程

(1) 受付 13:15~13:30

(2) 支部会

① 開会

・会場校校長挨拶 三森校長より挨拶

② 講演

「今、学校に必要な情報教育」

講師 栃木県総合教育センター 研究調査部 浦田 英亮 指導主事



初めに Twitter の写真をスクリーンに映し、そこから分かることを考えた。出身中学校や高校名、部活動名、現在いる場所などが分かってしまい、生徒が安易にいろいろな情報を流してしまっている現状を確認した。たとえ顔などが写真に写っていないとしても、ジオタグ情報により写真を撮影した場所が特定できてしまうこともあり、生徒に注意するよう指導したい。写真をネットにあげたしまった例では、バカッターなどの事例があげられた。被害に遭ったお店などではフランチャイズ契約を解消、なかには倒産してしまったお店もあったようである。

次に主に LINE におけるコミュニケーショントラブルの内容を扱った。SNS 利用時の被害経験と加害経験のアンケートによるとその差に開きがあり、自分にその意識がなくとも思わぬところで相手を傷つけてしまっている実態が浮き彫りになった。いまは電話やメール、対面での会話、LINE など多様なコミュニケーション方法があるが、字面などの方法では(対面での会話よりは)思いが伝わりにくい面があるということを生徒が理解しておくことが大切とのことであった。

最後に新学習指導要領におけるプログラミン教育について内容であった。今回の改訂では社会に開かれた教育課程というのがテーマであった。プログラミング教育のなかで、小学校ではスクラッチというものをを用いて教育をおこなうであろうという話があった。

③ 情報交換

その後、休憩をはさみ各校の取り組みについて情報交換をおこなった。質疑応答のなかで、浦田指導主事よりプログラミング関係の内容が弱いかもしれないという指摘があった。まずは先生方が先述のスクラッチなどを体験していただきたいという助言で終了した。



以上